



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

新入生に告ぐ

みなさんに告げます。しばらくすると少し疲れも出てくるし、少し緩みも出たり、少し勉強も難しくなったりします。でも、みなさんがその学年にふさわしい学習習慣や生活習慣を身に付けるのは今なのです。

今号は主に新入生に向けて書きますが、上級生もこれを読んで自分の現在地を考えることをお勧めします。

さて新入生諸君！「中学・高校に入ったら勉強を頑張ろう」「部活は何に入ろうかな」と希望に満ちつつも、知らない先生や友だちとの出会いで緊張していることと思います。いわゆる「期待と不安」ということです。私たち福岡女学院の教師は、君たちの思いや願いを大切にしつつ、君たちを“中学生”“高校生”そして“女学院生”にしていくという気持ちをもっています。

発達段階を考えると中1という年代は、自我に目覚め、独立の欲求が高まります。さらに、自己内省をするようにもなります。そのことも君たちが“中学生”になる要因となります。しかし、この時期、自分の気にしていることを他人から指摘されると動揺したり、自信を失ったり、自己嫌悪に陥ったりすることがあるのも特徴です。学習面の小中の違いもさることながら、部活動では先輩、後輩という新たな人間関係に直面し、プレッシャーもあるかもしれません。このような壁のことを「中学校（高校）の壁」と言ったりもします。私たち女学院の教師は、この壁を越えられるようにしっかり支援、指導していきます。

でも、このような不安やプレッシャーを除くために一番必要なことってわかりますか？ もちろん個人のパーソナリティーの部分も多少ありますが、実はそれは本当にほんの少しの要因なのです。一番大きな要因になるのは、“学級づくり”という人的環境による部分になります。下のチェック表を見てください。すべて「OK」ならとても充実した学校生活が送られます。ただその「OK」獲得のために、自分は学級のための一助になっているか、それともただぶら下がっているだけなのか、これは重要です。



- ひとりひとりに居場所がある
- 学級の中で役割があり、それをお互い認め合える
- 学級にルールとマナーがあり、守られている
- 将来の夢や希望が語り合える雰囲気がある
- 教室環境が整備されている

中学校から先のカテゴリーはすべて教科担任制になります。君たちが多様であるように先生たちも多様です。君たちの教室に次から次へと別の先生が入ってくるので、君たちはいろんな先生と接することができます。相談したい中身によって、先生を選ぶことができます。先生たちはチームで君たちの指導に当たるので、さまざまな先生が君たちに関わることができます。また、学習習慣の定着においては、スモールステップが大事になります。授業中の小テストなども小さなステップの積み重ねになります。君たちが勉強をあきらめないように工夫しながら、先生たちが君たちを“中学生”“高校生”“女学院生”にしていきます。一緒にがんばろう！

(学校長 重枝 一郎)